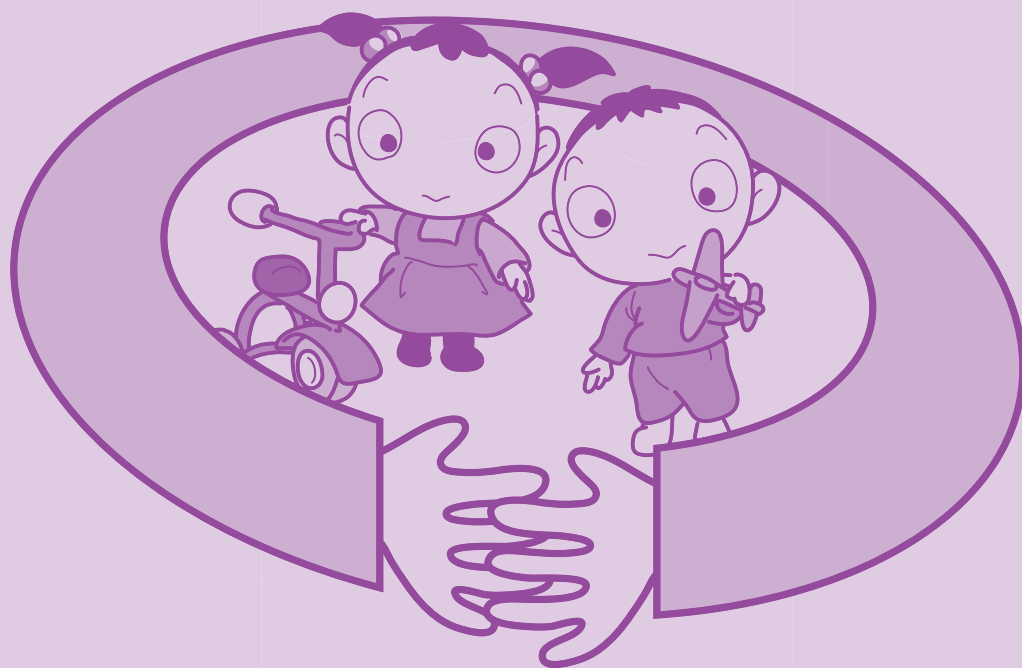


令和6年度
事業実施報告書

(和歌山市・紀の川市・岩出市受託講座)



公立大学法人 和歌山県立医科大学 小児成育医療支援室

目 次

相談状況	1
事業実施状況	4
市民公開講座アンケート集計	5
事業資料	
＊市民公開講座 第40回小児成育医療支援室研修会	7
＊第1回5市合同説明会	23

相談状況

(令和6年4月1日～令和7年3月31日)

(1) 相談件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	今年度合計	前年度合計
新規	5	22	29	23	17	21	25	11	12	22	17	13	217	218
総数	164	214	252	250	217	204	219	205	226	210	184	173	2518	2159

(2) 相談者住所

	新規	総数	前年度
和歌山市	147	1776	1575
岩出市	13	220	256
紀の川市	15	206	116
県内その他	24	280	183
他府県	5	22	3
不明	13	14	26
合計	217	2518	2159

(3) 年齢別新規相談者数

	和歌山市	岩出市	紀の川市
未就園児	12	0	0
年少	7	0	3
年中	15	3	1
年長	16	0	1
小学校低学年	42	6	7
小学校高学年	28	3	2
中学生	23	1	1
高校生	3	0	0
不明	1	0	0
合計	147	13	15

(4) 相談対応回数（重複）

	電話相談	面接相談
小児科医	4	153
公認心理師・臨床心理士・学校心理士	892	1698
心理相談員	61	212
事務	240	0
合計	1197	2063

(5) 相談経路

	和歌山市	岩出市	紀の川市
小学校	6	0	1
中学校	3	0	0
幼稚園	3	0	0
保育園(所)	0	0	0
保健センター	11	2	0
院内紹介	11	1	1
院外医療機関	12	5	3
パンフレット・HP・LINE	18	3	2
知り合い	11	0	0
こども家庭センター	2	0	0
児童相談所	0	0	0
家族	18	1	2
その他	11	1	2
不明	29	0	3
再開ケース	12	0	1
合計	147	13	15

(6) 新規相談内容の内訳

	和歌山市	岩出市	紀の川市
知的面の遅れ	2	0	0
コミュニケーションの問題 (吃音含む)	15	2	1
学習の問題(知的除く)	12	0	1
注意欠陥・多動の問題	14	1	0
不登校・行き渋り	23	4	4
家庭の問題	1	1	0
強迫行為(抜毛)	6	0	0
不安行為(緘黙・分離不安・チック)	7	1	2
食行動の問題	1	0	0
排泄の問題	4	0	0
その他	3	0	2
不明	2	0	0
育児相談	56	4	5
いじめ	0	0	0
心身症	1	0	0
合計	147	13	15

(7) 小児成育医療支援室から小児科外来に紹介した内訳

自閉症スペクトラム障害	26 名	ストレス関連障害	9 名
注意欠陥多動性障害	14 名	不眠障害	6 名
限局性学習障害	3 名		
不安障害	9 名		
愛着障害	3 名		
			合計 70 名

(8) 小児成育医療支援室で行った検査

ウェクスラー式知能検査 (WISC-IV)	65 名
新版 K 式発達検査	3 名

(9) 関係機関との連携

- ・ 和歌山市要保護児童対策地域協議会サポート連絡会議
- ・ 和歌山市要保護児童対策地域協議会実務者会議
- ・ 和歌山市障害者地域生活支援協議会
- ・ 和歌山市子ども・子育て会議
- ・ 和歌山市健康わかやま 21 推進協議会
- ・ 和歌山県立医科大学附属病院子ども虐待対策検討会 (SCAN 会議)
- ・ 院内子ども虐待防止検討会

令和6年度事業実施状況

事業名	日時	場所	内容	講師他	参加者
市民公開講座 第40回小児成育医療支援室研修会	12月7日	和歌山県立医科大学	【教育講演】 「自己実現と共感：アドラー心理学のカウンセリングへの応用」 【特別講演】 「子どものこころを育む子育てとは～前向き子育てのすすめ～」	【教育講演】 和歌山県立医科大学 小児成育医療支援学講座 篠崎 浩平 【特別講演】 南紀医療福祉センター 柳川 敏彦	96
学会報告	10月6日	コングレススクエア日本橋	炎症性腸疾患様の病変を呈した慢性活動性EBウイルス感染症の2例（第51回日本小児栄養消化器肝臓学会）	小児成育医療支援学講座 篠崎 浩平	200
	2月15日	和歌山県立医科大学	選択的血漿交換が有効だった抗神経抗体陰性自己免疫性脳炎の一女児例（第199回日本小児科学会和歌山地方会）	小児成育医療支援学講座 前田 真範	100
	3月5日	明星大学	こどもの「こころ」を守る地域包括的支援—医療・心理モデル・連携によるアプローチ— （日本発達心理学会第36回大会会員企画自主シンポジウム）	1) 和歌山県立医科大学 小児成育医療支援室 前田 真範 藤田 絵理子 土井 大地 2) 和歌山県立医科大学 保健看護学部 岡本 光代 3) 和歌山大学教育学部 北岡 大輔 4) 高野山大学文学部教育学科 上野 和久	45
	3月5日	明星大学	こどもの「こころ」を守る成育医療相談支援事業の取組—医療・心理モデル・連携によるアプローチ—（日本発達心理学会第36回大会ポスター発表）	和歌山県立医科大学 小児成育医療支援室 前田 真範 篠崎 浩平 藤田 絵理子 土井 大地 水野 悠斗 南野 友里 福井 愛子 前 知里 天野 扶美	
講演会	1月25日	Web開催	和歌山てんかん研究会「てんかんと精神症状の管理に難渋している結節性硬化症症例からの検討」	小児成育医療支援学講座 前田 真範	
	2月16日	和歌山県立情報交流センターBigU	和歌山県難病・こども保健相談支援センター紀南地方医療講演会「てんかんを知るはじめての一步—「けいれんとてんかんの違い」からQOLを高める関わりまで—」	小児成育医療支援学講座 前田 真範	30
	3月23日	和歌山県立情報交流センターBigU	子どものてんかん～正しい理解と適切な対応で支え合う社会へ～	小児成育医療支援学講座 篠崎 浩平	30
研修会	1月17日	海南保健所	第4回海南海草保健福祉検討会 「子どもの発達について」	小児成育医療支援室 前田 真範 藤田絵理子	40
関係機関との連携	和歌山市要保護児童対策地域協議会サポート連絡会議 和歌山市要保護児童対策地域協議会実務者会議 和歌山市障害者地域生活支援協議会 和歌山市子ども・子育て会議 和歌山市健康わかやま21推進協議会 院内子ども虐待対策会議（SCAN会議） 院内子ども虐待防止検討会 子ども虐待に対する安全対策チーム設置要綱検討会				
その他	支援室リーフレット作成				

2024 年度市民公開講座アンケート

2024.12.7

和歌山県立医科大学附属病院 臨床講堂 I

参加者 96 名

回答数 85 件

1. 性別を教えてください。

男性	女性	回答しない
16 名	69 名	0 名

2. 年齢を教えてください。

10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代以上	未記入
1 名	2 名	13 名	32 名	28 名	8 名	1 名	0 名

3. お立場を教えてください。

医師	医療関係者	学校関係者	福祉関係者	行政関係者
3 名	10 名	15 名	6 名	16 名
幼稚園・保育園関係者	学生	保護者	スクールカウンセラー	無回答
10 名	3 名	14 名	1 名	7 名

4. 市民公開講座をどこでお知りになりましたか。

チラシ	支援室 HP	市報	メール・SNS	リビング和歌山	保育園
36 名	6 名	5 名	8 名	6 名	1 名
家族・友人・知人から	未記入・回答不備	心理士紹介	職場		
17 名	1 名	2 名	3 名		

5.市民公開講座に対する満足度を教えてください。

大変満足	満足	やや満足	どちらともいえない	やや不満	不満	未回答・回答不備
44 名	34 名	6 名	0 名	1 名	0 名	0 名

6.本日の公開講座は今後の生活で活用できそうな内容でしたか。

活用できる	やや活用できる	どちらとも言えない	あまり活用できない	活用できない	未記入
61 名	20 名	3 名	0 名	0 名	1 名

7.今後も市民公開講座に参加したいと思いますか。

ぜひ参加したい	タイミングが合えば参加したい	講演の内容による	どちらとも言えない	未記入・回答不備
39 名	29 名	16 名	0 名	1 名

8.次回、市民公開講座に際し、どのような形での参加をご希望されますか。

現地開催	オンライン開催	未記入・未回答	どちらも OK
57 名	13 名	2 名	13 名

市民公開講座(小児成育医療支援室研修会)特別講演報告

第 40 回和歌山県立医科大学小児成育医療室研修会（2024 年度市民公開講座） 令和 6 年 12 月 7 日

子どものこころを育む子育てとは ～前向き子育てのすすめ～

柳川敏彦 トリプル P ジャパン理事長、和歌山県福祉事業団 南紀医療福祉センター院長

はじめに

2023 年 4 月から内閣府は、少子化や虐待、いじめなど子どもを取り巻く課題に対し、複数省庁にまたがっていた対応を一元化する「こども家庭庁」を設置し、子どもの利益を第一に考える「子どもまんなか社会」の実現を掲げています。「こども家庭庁」は、子ども達を健やかに育てるための国を挙げての母子保健事業である「健やか親子 21」に端を発しています。「健やか親子 21」は平成 13 年（2001 年）度から開始され（1 次）、平成 27 年度からの第 2 次計画では「すべての子どもが健やかに育つ社会」として、すべての国民が地域や家庭環境等の違いにかかわらず、同じ水準の母子保健サービスが受けられることを目指しています。2024 年 4 月施行の改正児童福祉法では、妊産婦や子育て世帯が気軽に相談できる「こども家庭センター」の設置が市区町村の努力義務となり、市町村を実施主体とした「親子関係形成支援事業」が盛り込まれ、具体的にはペアレントプログラムなどの親支援プログラムが推奨されています。

すべての親のための前向き子育てプログラム(Positive Parenting Program: Triple P)


親は積極的に子どもにどのように接するかを学ぶ必要があります。ペアレンティングは、子どもが日常起こしがちな問題行動に対して、親の戸惑いにヒントを与え、さらには子育てに対するやりがいを伝える道しるべです。子どもの問題行動に起因する育児の負担感・困難感から「子どもへの不適切な扱い＝子ども虐待」の予防として、「親としてのスキル、親の役割、親のあり方」を学ぶ機会が求められています。核家族化、単親家族の増加、父親の不在、母親の孤立、若年の母親、そして経済的困窮など社会事情の変化を考えると、ますますペアレンティングの必要性が浮かび上がってきています。

トリプル P は、オーストラリア・クィーンズランド大学教授の Matthew R. Sanders(マット・サンダース教授)により開発されました。前向き子育てプログラムは、Positive Parenting Program の頭文字 3 つの P という愛称で、日本には 2005 年に導入され、認知行動療法を原則理念とした親への心理教育プログラムです。トリプル P では、親と子どもがよい時間をつくることを大切にして子どもの発達を促すことに重点を置いています。子どもと親の安定した愛着関係を築き、子どもの好ましい行動（感情をコントロールする力、人と上手く関わる力、目標に向かってがんばる力＝いわゆる情動知能・非認知能力）を育てるための内容などを具体的に学ぶ「前向き子育て（Positive Parenting）」です。問題行動への対処では、単に子育てスキルとしての how to を学ぶのではなく、親が様々な状況に出会ったとき、トリプル P で学んだことをヒントに、自ら工夫し、自ら解決の糸口を見つけ出すことを特徴とし、自己管理 self-management、自己効力感 self-efficacy、自ら行動する personal agency、自己充足感 self-sufficiency の 4 つのプロセスから自己調整 self-regulation の能力を身につけることを重視したプログラムといえます。

講演では、トリプル P の 5 原則と具体的な 17 の技術のうちいくつかを紹介します。

まとめ

トリプル P は子ども虐待、子どもの問題行動の一次予防として役立ち、発達に問題のある子をもつ親は子どもの状況に早くから気づき、二次障害、併存障害の進展を予防するという意味で発達障害の早期発見・早期支援となります。地域での活動においては、育児不安の解消と援助が必要な子どもの親への支援とともに保健師、子育て支援従事者の負担の軽減、自信の向上など非常に応用性の高いプログラムです。わが国の各地域でのさらなる展開を心から期待しています。

<p>第40回和歌山県立医科大学小児成育医療室研修会 令和6年12月7日 和歌山県立医科大学附属病院4階 臨床講堂1 2024年度市民公開講座</p> <p>子どものころを育む子育てとは ～前向き子育てのすすめ～</p> <p>柳川敏彦 和歌山県立医科大学名誉教授 南紀医療福祉センター院長 トリプルPジャパン理事長</p>	<p>内なるこども（インナーチャイルド） ワンダーチャイルド Wonderful</p> <table><tr><td>W: Wonder</td><td>驚き、好奇心</td></tr><tr><td>O: Optimism</td><td>楽天性、信頼</td></tr><tr><td>N: Naïve</td><td>純真さ、無邪気さ、素直さ</td></tr><tr><td>D: Dependence</td><td>依存</td></tr><tr><td>E: Emotions</td><td>情動</td></tr><tr><td>R: Resilience</td><td>回復力</td></tr><tr><td>F: Free Play</td><td>自由な遊び、自発的</td></tr><tr><td>U: Uniqueness</td><td>独自性、唯一無二、統一性</td></tr><tr><td>L: Love</td><td>愛、慈しむ</td></tr></table> <div>誰の中にもある、究極的に生き生きとした、エネルギーで、創造的な満たされた部分 リアルな部分、真の自分</div>	W: Wonder	驚き、好奇心	O: Optimism	楽天性、信頼	N: Naïve	純真さ、無邪気さ、素直さ	D: Dependence	依存	E: Emotions	情動	R: Resilience	回復力	F: Free Play	自由な遊び、自発的	U: Uniqueness	独自性、唯一無二、統一性	L: Love	愛、慈しむ
W: Wonder	驚き、好奇心																		
O: Optimism	楽天性、信頼																		
N: Naïve	純真さ、無邪気さ、素直さ																		
D: Dependence	依存																		
E: Emotions	情動																		
R: Resilience	回復力																		
F: Free Play	自由な遊び、自発的																		
U: Uniqueness	独自性、唯一無二、統一性																		
L: Love	愛、慈しむ																		
<p>どのようなお子さんに育ってほしいですか？</p> <ul style="list-style-type: none">・健康で、適応力のある子ども・必要なことを伝える・人とうまく付き合える・最善を尽くす・感情をコントロールする・自分を気持ちよく感じる																			
<p>中島 潔 パリの空の下で</p> <p>30年ほど前、私はパリの国立美術学校でもぐりの学生となり、裸婦をデッサンしまくる毎日を送っていました。ある日懸命に描いていると、突然女性教師が私のスケッチブックを取り上げたのです。</p> <p>「しまった、ばれたか」と観念していると、先生は学生たちを集め、何かをいっています、そしてにっこり笑ってスケッチブックを返してくれ、私の絵を「素晴らしい」と褒めてくれたのです。ゴルバト先生のその一言で、私は絵描きになる決心をしたのです。</p>	<p>子どもを取り巻く諸問題から</p> <p>どの親も自分の子どもが心身ともに健やかに育ってほしいと願って子育てに取り組んでいる。子どもに関わる医療、保健、福祉、教育等の専門職は皆、一生懸命である。しかし私たちの周辺を見回すと、子ども虐待、いじめ、不登校や引きこもり、自殺、そして近年ではゲーム依存などの諸問題が、養育者、専門職の努力にもかかわらず、減少に向けての歩みではなく、依然として増え続けている。</p> <div>子どもを取り巻く諸問題に共通しているのは、“子どものころが育っていない”と感じるところである。子どもを取り巻く諸問題は、当然、個人の力、一つの領域・分野では解決できるものではなく、多機関のアプローチが必要とされる。</div>																		

日本小児科医会 第30回小児科医セミナーR5.11.5
「子ども医療費助成とこれからの子ども支援」
五十嵐 隆

健康の定義 (WHO)

Health is a state of complete physical, mental and social well-being (身体的、心理的、社会的に良い状態) and not merely the absence of disease or infirmity.

米国小児科学会はこれら3つを総称して "biopsychosocial" を用いている。

*well-being「真の幸せ」と翻訳することがある。

わが国の小児科医の基本的姿勢:
子どものbiopsychosocial well-beingを目指すべき

妊娠中・小児期・青年期の因子が成人期の健康に影響を及ぼす

DOHaD: Developmental Origins of Health and Disease
胎児期から出生後早期の環境がその後の人生及び成人期における病気や生活習慣病のリスク要因になるとする仮説

子どもの身体・心理・社会的別健康状況の国際比較
(経済協力開発機構OECD加盟38カ国の順位付け)
Innocenti Report Card 16: UNICEF, September, 2020

順位	国	身体的 Well-being	心理的 Well-being	社会的 Well-being
1	Netherlands	9	1	3
2	Denmark	4	5	7
3	Norway	8	11	1
20	JAPAN	1	37	27
38	Chile	36	27	38

Skills (academic and social): reading/mathematics, making friends

ライフサイクルからみた心の病

安定した愛着

人と人との関係の希薄化に起因する問題がクローズアップされています。いじめ、虐待という「人間関係のねじれ」とともに、その周辺に見え隠れする不登校、発達障害、非行の問題もこの「人間関係のねじれ」が大きく関係することが指摘されています。人間が幸福に生きていくうえで、最も大切なものの一つは「安定した愛着」です。愛着とは、人と人との絆(きずな)を結ぶ能力であり、人格のもっとも土台となる部分を形作っているものです。安定した愛着スタイルを持つことができると、対人関係も、仕事においても高い適応を示し、人とうまくやっていくだけでなく、深い信頼関係を築き、長年にわたって維持していくことで、大きな人生の果実を手に入れやすいといわれています。「安定した愛着」は、どんな相手に対してもきちんと自分を説明し、同時に不要な衝突や孤立を避けることができ、困った時は助けを求め、自分の身を上手に守ることで、ストレスからうつになることも少なくなるというわけです。「安定した愛着」は、良好な親子関係での理想形です。個人として心がけたい「愛着の問題」は、同時に組織の中でも活かせる問題であると思う次第です。

JaSPCAN滋賀大会・公募シンポジウム S-26 (2023.11.26) 児童相談所および市町村におけるトリプルP導入の現状と親子関係構築支援の新しい展開に向けて

概要

2023年4月から内閣府は、少子化や虐待、いじめなど子どもを取り巻く課題に対し、複数省庁にまたがって対応を一元化する「子ども家庭庁」を設置し、子どもの利益を第一に考える「子どもまんなか社会」の実現を掲げています。2024年4月施行の改正児童福祉法では、妊産婦や子育て世帯が気軽に相談できる「子ども家庭センター」の設置が市区町村の努力義務となり、市町村を実施主体とした「親子関係形成支援事業」が盛り込まれ、具体的にはペアレントプログラムなどの親支援プログラムが推奨されています。

トリプルPを実践しているシンポジストから、導入にまつわる内容やプログラム継続の現状を提示頂き、発表後シンポジウム参加者と共に、地域の実情に見合った導入プランについて意見交換を行い、親子関係構築支援の地域での展開を検討する。

市町村で取り組む親子関係形成支援事業なら 前向き子育て・トリプルP

Positive Parenting Program の特徴

親子関係形成支援と親支援プログラム

令和6年4月に施行となる改正児童福祉法では、市町村を実施主体とした親子関係形成支援事業が創設されました。健全な親子関係の形成を支援するために、ペアレントプログラムやペアレントトレーニングなどの親支援プログラムが推奨されています。親支援プログラムには、個別、グループ形式で行うもの、1回で終わるもの、継続して行うものなど様々なものがあり、誰でもどこでも必要支援を安定的に効率的に提供できます。

市民公開講座(小兒成育医療支援室研修会)特別講演報告


[illegible]

Triple P <Positive Parenting Program>
前向き子育てプログラム) とは・・・



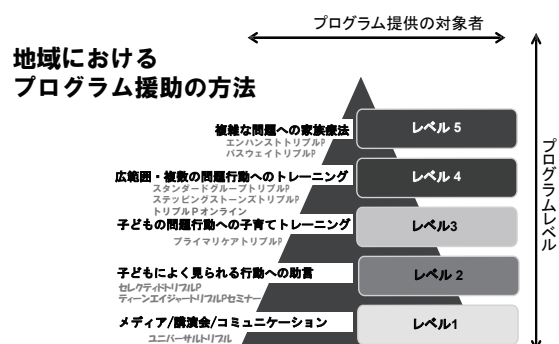
創設者：
マット・サンダース
(豪州・クイーンズランド大学
臨床心理学教授)

- ・2歳～12歳の子どもの持つ親のためのプログラム
- ・30年以上にわたる、子どもの行動の要因についての科学的研究と臨床経験に基づく。
- ・心理学の認知行動療法がベースのプログラム。



Triple Pの特徴

- ▶ オーストラリアで80年代後半に開発された
- ▶ 世界の35か国で使用されている
- ▶ 実践的で分かりやすく親がすぐに使える
- ▶ 育児技術などのネーミングが魅力的
- ▶ 認知行動理論をはじめとした多くの理論に基づく
- ▶ 幼児期から思春期までの子どもに使うことが出来る
- ▶ 地域レベルの介入が可能である(地域のあらゆるレベルの問題例)
- ▶ 既に問題を抱える家庭だけでなく予防的早期介入支援としても使用可能
- ▶ 客観的な評価が出来る
- ▶ 様々な国で690以上の治験、調査、専門誌論文と、240以上の評価論文が発表されている(2016)



レベル2 セミナー形式
特定トリプルP(セレクトィッド・トリプルP)

3つトピックがセレクト(特定)されている

セミナー形式(20-100名)で提供

- ①前向き子育てパワー
前向き子育て実践のためのヒントで、5原則、17スキルを紹介します。
- ②子どもの自信を育てる
子どもに重要なスキルをつけさせ、能力と自信を持った子どもにするためのヒントを紹介します。
- ③がんばれる子どもを育てる
子どもはみんなストレスを経験します。いろんな状況に対して上手に
適応できる子どもに育てるヒントを紹介します。

19

レベル3：プライマリーケアトリプルP

・1対1の面談形式で、特定の問題行動
(例：泣く、かんしゃく、お買い物の問題
など)に困っている養育者に、20～30分程
度のコンサルテーション(面談)を4回連
続で行うもの。

20

レベル3(1対1面談)教材：
ブックレット&チップシート



トリプルPの技術を
コンパクトにまとめた冊子



子育てテーマ別に対応方法を
まとめたシート

21

レベル4(グループワーク)教材：
ワークブック



グループトリプルPで
使用するワークブック



ステップストーンズで
使用するワークブック

22

「前向き子育て講座(グループトリプルP)」



- 子育てスキルを幅広くトレーニングするために作られた講座。前向きな子育てスキルの集中トレーニングを望む親や深刻な問題行動の子どもをもつ親を対象とします。

前向き子育て講座グループワーク
前向き子育ての考え方、行動記録
のための講義、スキル習得のための
ロールプレイを行う。(第1～4週目)

電話セッション
子育てスキルの実施
状況の確認や改善
(第5～7週目)

プログラムの
まとめ
修了
(第8週目)

□ (例)「前向き子育て講座」の実施例(ステップストーンズは全9回)
日時：10月～11月 毎週土曜 10時～12時(ただし、5週～7週は電話セッション)
定員：12名(託児可能) 参加費：2500円+税(テキスト代として)

第一回 前向きな子育 てとは？	第二回 子どもの 発達を促 す	第三回 問題行動 を取り扱 う	第四回 計画を 立てて 行う	第五回 実践して いく(1)	第六回 実践して いく(2)	第七回 実践して いく(3)	第八回 プログラ ムの修了 と振り返
-----------------------	--------------------------	--------------------------	-------------------------	----------------------	----------------------	----------------------	-----------------------------

23

Triple P <Positive Parenting Program>
(前向き子育てプログラム)とは・・・



<トリプル P の五原則>

1. 安全に遊べる環境づくり
2. 積極的に学べる環境づくり
3. 一貫した分かりやすいしつけ
4. 適切な期待感をもつ
5. 親として自分を大切にする

24

Triple P <Positive Parenting Program>
(前向き子育てプログラム)

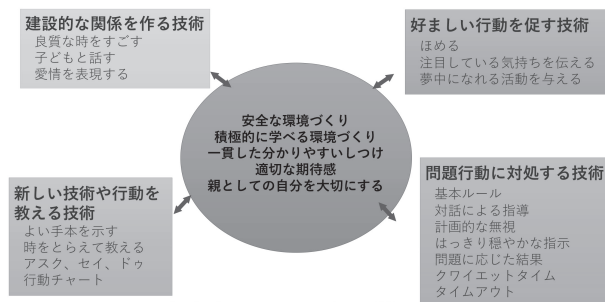


＜ステッピングストーンズトリプル P の7原則＞

1. 安全に遊べる環境づくり
2. 積極的に学べる環境づくり
3. 一貫した分かりやすいしつけ
4. 子どもの障害に適応する
5. 適切な期待感をもつ
6. 地域社会の一員となる
7. 親として自分を大切にすること

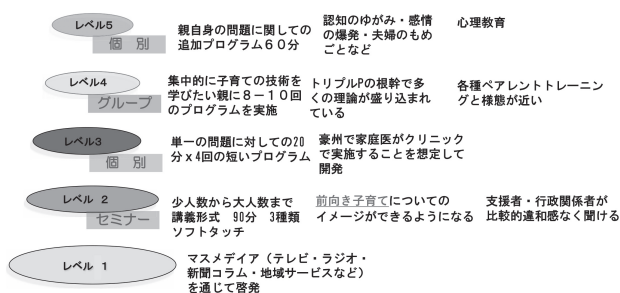
25

子育ての知識 前向き子育て技術

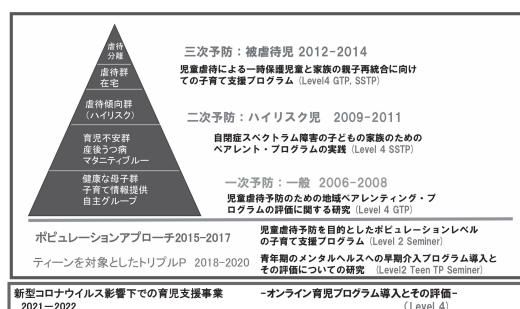


トリプルPに用いられている5原則と17の技術

5段階の介入レベル

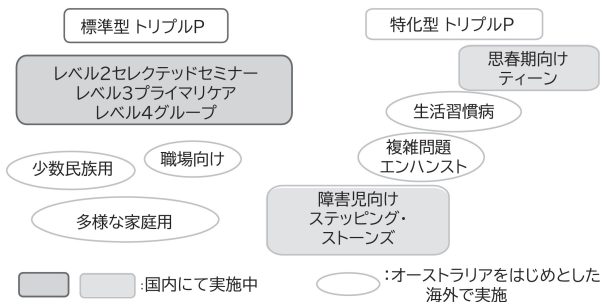


子ども虐待の予防をテーマとした研究

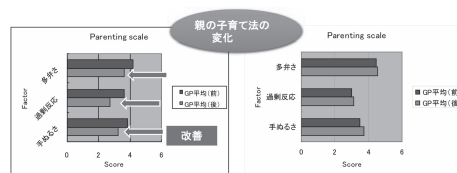


2

トリプルPにおけるオプション



プログラム実施前後の比較
(アセスメントの結果より)



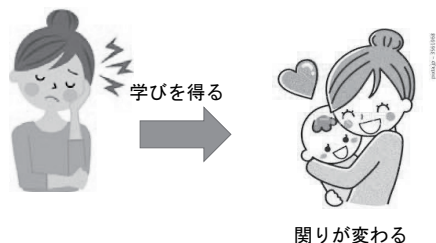
トリプルP実施群

	对照组	观察组
年龄 /岁	(60.8±7.9)	(60.5±8.2)
性别 /男、女例数	20、20	20、20
病程 /年	(12.5±3.2)	(12.8±3.5)
合并高血压例数	10	12
合并糖尿病例数	8	9
合并高脂血症例数	12	11
合并冠心病例数	9	10
合并脑血管病例数	11	12
合并其他疾病例数	5	6

<div><h3>プログラム実施前後の比較 (アセスメントの結果より)</h3><div><div><p>子どもの問題行動の変化</p></div><div><p>親の精神面の変化</p></div></div><p>プログラム実施群 対照群</p></div>	<div><h3>前向き子育てで期待できること (研究結果から明らかになったこと)</h3><div><div><p>●親の変化</p><ul style="list-style-type: none">□子育ての力をつけ自信を持つ□うつに陥ることが少ない□ストレスレベルが下がる□パートナーとの争いが少ない□子どもとの争いが少ない□よりよく仕事できる□仕事と家庭のバランスで悩むことが少ない</div><div><p>●子ども変化</p><ul style="list-style-type: none">□生活技術を伸ばす□学校でよりよく活動する□友達を作る□自分を気持ちよく感じる□行動問題や情緒問題を減らす□薬物使用や非行に陥る傾向が少ない</div></div><div><p>トリプルPの研究結果から引用</p></div></div>
<div><h3>親が親として育つための支援の必要性</h3><ol style="list-style-type: none">1. 子どもに接したり世話をした経験がなく、関わり方がわからないため、ささいなことで心配になり不安をもちやすい。2. 自分の子とよその子と比較しがちで、しつじに体罰を用いたり、子どもに対して「厳格・禁止」「不安」「干渉」「期待」といった態度で接する母親が多くなっている。3. 母親の話し相手や子育て仲間がいるだけでは精神的安定は得られない。<p>◎子どもとの関わり方や子育ての方法を学習する場、親どうしがつながりをもてる場、親として認められる場が必要</p><p>⇒ ペアレンティング・プログラム (子育て支援プログラム)</p></div>	<div><h3>自己調整（自己統制）のアプローチ：</h3><p>自らの行動を変えるスキルを習得するプロセス</p><div><div><p>自己調整とは、ある目標を充足させるために自らの動機・思考・感情・行動を望ましい状態に変化させ体系的に管理する一連の心理過程をさす。</p><p>親の自己調整</p><p>自己管理 自己効力感 自己の働き 問題解決 自己充足感</p><p>最小限に充足した支援</p><p>・親が自力で問題を解決出来るようになるスキルを教える</p></div><div><p>・動機・思考・感情・行動 注意を調整する一連の心理過程</p><p>支援の必要性の減少</p></div></div></div>
<div><h3>親に自己統制力を身につけてもらう</h3><div><div><p>自己統制と子育ての適性</p><p>トリプルPでは、子育てに必要な、以下のような資質、能力を身につけることを重要と考えている。</p><ul style="list-style-type: none">○自己充足感 (Self-sufficiency) : これならできかな、と思ってみようように気持ちを促す○自己効力感 (Self-efficacy) : 「やってみてできた」上手にできたことを認める○自己管理 (Self-management) : 行動観察、行動記録、自己評価など○自ら行動する者 (Personal agency) : 子どもや自分の変化を、子どもや自分が努力したからだと認める力○問題解決 (Problem solving) : 将来問題が起こった時に応用する力<p>応用できる自信</p></div><div><p>シナリオ化の例 (マニュアルの内容から、今日の面談(電話セッション)を始めるにあたって)</p><p>今日話し合うことをあなたと決めたいと思います。子どもさんについての悩みのどんなことを話し合うか、一緒に決めましょう</p><p>「そうですね、〇〇の時、お子さんが△△だと、いらいらして怒鳴りたくなります すね。」</p><p>積極的傾聴法の活用</p><p>・認知行動療法の4原則</p></div></div></div>	<div><h3>どのようなお子さんに育ってほしいですか？</h3><div><ul style="list-style-type: none">・健康で、適応力のある子ども・必要なことを伝える・人とうまく付き合える・最善を尽くす・感情をコントロールする・自分を気持ちよく感じる<div><div><p>感情をコントロールする力 (自制心、忍耐力)</p><p>人と上手に関わる力 (協調性、コミュニケーション力)</p><p>目標に向かってがんばる力 (意欲、粘り強さ、計画性、想像力)</p></div></div></div></div>

<div><p>感情知能(EQ),情動知能(EI) 心の知能指数(非認知能力)</p><div><div>安定と統制の時代</div><div>変化と創造の時代</div></div><div><div>・ 調和を崩さない</div><div>・ ルールに従う</div><div>・ 正しく事を機能させる</div></div><div><div>・ 多様性を受け入れる</div><div>・ 柔軟に対応する</div><div>・ 自分を変革し続ける</div></div><div><div>認知能力</div><div>非認知能力</div></div><div><div>学歴/性格</div><div>感情・情動知能</div></div><div><div>変える・開発が容易でない</div><div>変える・開発が可能</div></div></div>	<div><p>ジェームズ・J・ヘックマン博士の 40年間の調査結果</p><p>ベリー就学前プロジェクトの効果 (40歳時点)</p><p>月給2000ドル以上 持ち家率 高校卒業率 生活保護の非受給率</p><p>0 10 20 30 40 50 60 70 (%)</p><p>幼児教育の経済学 衝撃の真実!</p><p>実証経済新聞社、2015年</p><p>非認知能力はどのようにすれば、身に付けることができるか。</p><ol style="list-style-type: none">1. 子どもが安心できる環境を作る。2. 子どもが自分から興味を持って観察したり調べたりする時間を邪魔せず、そっとサポートする。3. 本人が何かをやり遂げたり、成功したり、失敗したら、共感する。</div>
<div><p>非認知能力向上とトリプルP</p><p>ドーパミンにより喜びや達成感を感じ前頭前野は活性化</p><p>中脳から前頭前野に向かって放出されるドーパミン</p><p>前頭前野 (運動野) (体性感覚野) (視覚野) (聴覚野) (嗅覚野) (味覚野)</p><p>小脳</p><p>創造力 自主性 積極性</p><p>子どもの安定した環境のうに発生する非認知能力にポジティブシャワー (前向きな刺激) を行いドーパミンをたくさん放出させることです。子どもが自主的に遊びを考え、それに挑戦することを奨励し、周囲の大人から励まされたり、褒められたりすると、たくさんのドーパミンが前頭前野に放出され、(運動性) (体性感覚) (知覚) といった非認知能力が発達するのです。</p></div>	<div><p>非認知能力を伸ばすために必要な要素</p><p>ポジティブシャワー 非認知能力</p><p>安定した愛着 安定した愛着 安定した愛着 安定した愛着</p><p>集団生活・家庭外活動におけるさまざまな体験と出会いと学びのある失敗が育ちの肥やしとなる</p><p>非認知能力を伸ばすために必要なもの</p><ol style="list-style-type: none">1. 安定した愛着形成2. ポジティブシャワー3. 体験、出会い、学びのある失敗<p>たくさんの人と出会い、積極的に遊ぶことでさまざまな体験をし学びのある失敗を繰り返しながら自主的に行動することができるようになるのです。</p></div>
<div><p>強い興味や関心</p><p>安定した愛着形成ができると、子どもは外の世界に興味関心を持ちます。そんな時期、子どもは好奇心を否定されたり、探求を制限されたりしなければ自分が興味をもったことを価値があると感じます。子どもにとっては、興味を肯定される体験こそが未来の夢の実現に向けた下地となるのです。</p><p>これは前向き子育て5原則の「前向きな学びの環境作り」を実践することから育てることができます。</p><p>「夢中になれる活動を与える」「時をとらえて教える」も子どもの興味関心を肯定し励ますことにつながります。</p></div>	<div><p>愛着形成のための3つの基地機能</p><p>愛着性 トラウマ アディクション (依存性)</p><p>感情のコントロール</p><p>精神的自立</p><p>意欲 認められ感</p><p>探索基地</p><p>安全基地</p><p>安心基地</p><p>・ 特定の人から離れ、行動し、その人、また「特定の人」の所に帰ってくるという一連の行動 ・ 自身の体験を「特定の人」と共有し、受容してもらうことでポジティブな感情が増加し、ネガティブな感情は減少する。</p><p>・ 恐怖や怒り不安、怒り、悲しみなどのネガティブな感情を持ったとき、「特定の人」に守ってもらえるという認知・行動の基地</p><p>・ 「特定の人」と一緒にいるとき「落ちたいな」「ホットするな」「何だかちょっといい気持ちになる」などポジティブな感情を生じさせる感情の基地</p><p>米澤好史「愛着障害は何歳からでも修復ができる」 合同出版から引用 一部改変</p></div>

それぞれ一生懸命に子育て



43

躰(しつけ)って何だろう？

しても良いことを教える
何かをやめさせたら、
必ず何をすればいいかを教える



44

何処に注目しているか？



45

親が前向き子育ての スキルを知ること

怒鳴らなくて
いいんだ

何にイライラ
たんだろう

話せば
わかるんだ！



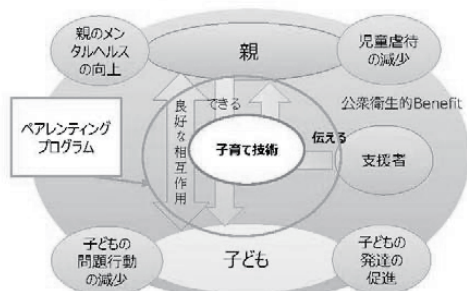
良いところがいっぱい
見つかった！！

悪いことばかり
みてたな～

子どもの問題じゃなく
私の問題

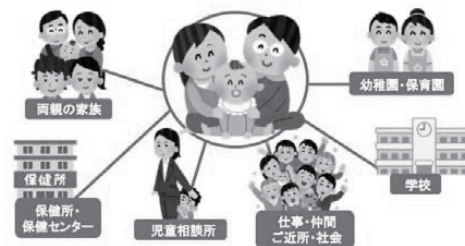
46

子育て技術とペアレンティングプログラム



とも育て(きょうどう子育て)が必要

その家族の脇にいて共に(伴に)寄り添う



48

自己実現と共感： アドラー心理学の カウンセリングへの応用

和歌山県立医科大学 小児成育医療支援学講座
篠崎浩平

小児成育医療支援室



相談の対象者

中学生までのお子さん、及びその保護者

相談の形態（面談の場合）

親・子それぞれに担当者が1名ずつ担当

基本は別室で、カウンセリングを実施

利用時間

電話相談

月曜日～金曜日 9:00～17:00

予約面談

月曜日～金曜日 10:00～17:00（1枠＝1時間）

相談費用

相談・各種発達検査は無料

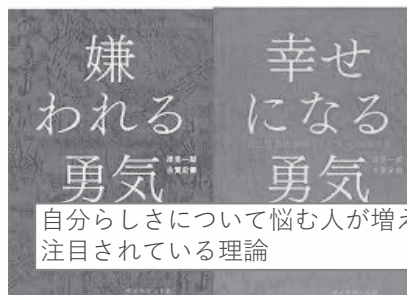
（外来に紹介した場合は医療費が必要な場合あり）

2022年度の小中学生の不登校児の人数

30万人

日本の小中学生の人数 900万人

アドラー心理学

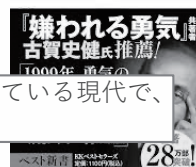


アドラー 心理学入門

よりよい人間関係のために

岸見一郎

Adolf Hitler



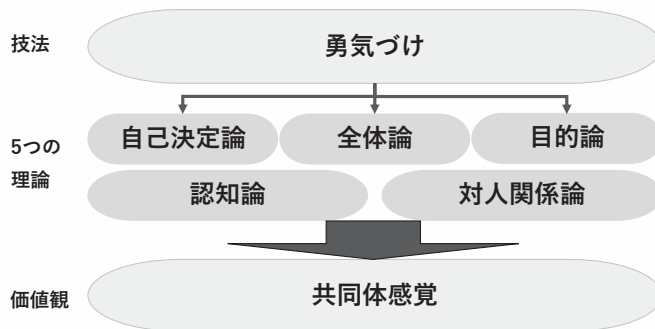
自分らしさについて悩む人が増えている現代で、
注目されている理論

アドラー心理学とは？

- ・ オーストリアの心理学者アルフレッド・アドラー
によって提唱された心理学理論
- ・ 「人は何かしらの目的を持って行動する」と考える
- ・ 過去の経験や無意識に注目するのではなく、
「今から何をを目指すか」に焦点を当てる
- ・ 人が変わるための勇気づけを行う心理学



アドラー心理学の全体像



<p>アドラー心理学の考え方</p> <p>➤5つの理論</p> <p>(自己決定論、目的論、全体論、対人関係論、認知論)</p> <p>➤技法</p> <p>(勇気づけ)</p> <p>➤価値観</p> <p>(共同体感覚、自己受容、他者信頼、貢献感)</p>	<p>アドラー心理学の考え方</p> <p>➤5つの理論</p> <p>(自己決定論、目的論、全体論、対人関係論、認知論)</p> <p>➤技法</p> <p>(勇気づけ)</p> <p>➤価値観</p> <p>(共同体感覚、自己受容、他者信頼、貢献感)</p>
<p>5つの理論</p> <div><div><p>目的論</p><p>人の行動には目的がある</p></div><div><p>自己決定論</p><p>人生の主役は自分</p></div><div><p>全体論</p><p>人間は分割できない一つの集合体</p></div><div><p>認知論</p><p>人は世界を自分の見たいように見ている</p></div><div><p>対人関係論</p><p>人間のあらゆる行動は相手役が存在する</p></div></div>	<p>目的論</p> <p>•人の行動には必ず目的がある</p> <div><div><p>過去</p><p>飲食店の店員にコーヒーをこぼされた</p><p>原因論</p></div><div><p>現在の行動</p><p>その店員に苛立ち、大声でどなった</p><p>目的論</p></div><div><p>未来</p><p>店員を屈服させたい</p><p>クリーニング代を受け取りたい</p></div></div>
<p>目的論</p> <p>•人の行動には必ず目的がある</p> <div><div><p>過去</p><p>飲食店の店員にコーヒーをこぼされた</p><p>原因論</p></div><div><p>現在の行動</p><p>「気にしないで」と声をかける</p><p>目的論</p></div><div><p>未来</p><p>穏便にすましたい、時間を取られたくない</p></div></div>	<div><p>自分の目的が変われば 現在の行動も変わる可能性がある</p></div>

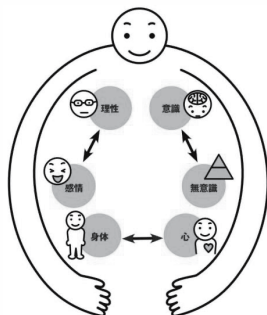
市民公開講座(小児成育医療支援室研修会)教育講演報告

<p>原因論と目的論</p> <p>学校でのいじめ → 原因論 → 不登校 → 目的論 → 嫌なことを避けたい？ ・他者との関係を築きたくない？ ・ゲームや動画鑑賞をしたい？</p> <p>いじめが原因で不登校になっている</p> <p>不登校をしている何らかの目的がある</p>	<p>原因論と目的論</p> <p>学校でのいじめ → 原因論 → 不登校 → 目的論 → 嫌なことを避けたい？ ・他者との関係を築きたくない？ ・ゲームや動画鑑賞をしたい？</p> <p>いじめが原因で不登校になっている</p> <p>不登校をしている何らかの目的がある</p>
<p>5つの理論</p> <p>目的論 人の行動には目的がある</p> <p>自己決定論 人生の主役は自分</p> <p>全体論 人間は分割できない一つの集合体</p> <p>認知論 人は世界を自分の見たいように見ている</p> <p>対人関係論 人間のあらゆる行動は相手役が存在する</p>	<p>自己決定論 ・人は、自分の行動を自分で決めている</p> <p>・「置かれた環境から、現在の自分を作ったのは自分自身」</p> <p>・「自分を変え得るのも自分自身」</p> <p>今から～～しよう！</p> <p>家族から反対されるし・・・</p> <p>お金ないし、時間ないし・・・</p> <p>やり方なんて分からないよ</p> <p>変わらないという決断を自分でしている</p>
<p>自己決定論の判断基準</p> <p>例) 不登校</p> <p>建設的</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分のペースで学びや趣味に取り組む 安心して話せる人を見つける 社会との接点を作る 趣味や特技を見つけて取り組む <p>非建設的</p> <ul style="list-style-type: none"> 過剰に自分を責め、自己否定に陥る 他人と比較して絶望感を抱く 閉鎖的で家族や友人との交流を避ける 	<p>5つの理論</p> <p>目的論 人の行動には目的がある</p> <p>自己決定性 人生の主役は自分</p> <p>全体論 人間は分割できない一つの集合体</p> <p>認知論 人は世界を自分の見たいように見ている</p> <p>対人関係論 人間のあらゆる行動は相手役が存在する</p>

全体論

・人は心の中が矛盾対立する生き物ではなく、意識・無意識、理性・感情、心と体など要素に分割できない存在

- ・病は気から・・・
- ・「分かっているけどやめられない」のではなく、「やめない」選択をしている



岩井俊憲, 人生が大きく変わるアドラー心理学

5つの理論

目的論

人の行動には目的がある

自己決定性

人生の主役は自分

全体論

人間は分割できない一つの集合体

認知論

人は世界を自分の見たいように見ている

対人関係論

人間のあらゆる行動は相手役が存在する

認知論

・人は世界を自分の見たいように見ている



認知論の実践

・事実は変えられないが、解釈は変えられる

- ・短気 → 決断力、行動力がある
- ・取り柄がない → 安定している、バランス感覚に富んでいる
- ・失敗してばかり → 挑戦した回数が多い
- ・ネガティブ思考 → 最悪を想定して慎重な考え方が出来る

5つの理論

目的論

人の行動には目的がある

自己決定性

人生の主役は自分

全体論

人間は分割できない一つの集合体

認知論

人は世界を自分の見たいように見ている

対人関係論

人間のあらゆる行動は相手役が存在する

対人関係論

・全ての悩みは「対人関係」から生じる


劣等感

・「誰か」や「理想の自分」と比較して満たされていない



前進するパネとなる可能性！

<div><p>子どもが学校に行けてなくて、、、 なんか、しんどそうで辛そうで。 頭痛い、お腹痛いって言ってます。</p><p>病院にも連れて行っても、変わりなくて 外にも出たがらなくて、外に出ようって 誘ってみるけど、反応はなくて、</p><p>「勉強したら」っていうと、最近では 「うるせえ」って反発してくるんです。</p></div>	<div><p>課題の分離</p><p>自分の課題なのか？ 相手の課題なのか？</p><p>勉強しなさい！</p><p>勉強は 子ども自身の課題</p></div>
<div><p>課題の分離</p><p>互いに介入してはいけない</p><p>自分のすべき事に 集中する</p><p>相手のことを 信頼する</p></div>	<div><p>課題の分離</p><p>前だん 共通の課題</p><p>助けて...</p></div>
<div><p>・対等</p><p>・相手をコントロールしようとしな</p></div>	<div><p>アドラー心理学の考え方</p><p>➤5つの理論 (自己決定論、目的論、全体論、対人関係論、認知論)</p><p>➤技法 (勇気づけ)</p><p>➤価値観 (共同体感覚、自己受容、他者信頼、貢献感)</p></div>

<div>勇気づけ</div> <div>• 困難を克服する活力を与えること</div> <div><div>褒める</div><div>→</div><div>相手との上下関係を作ってしまう 褒められるために行動する 褒められないことに怯えてしまう</div></div>	<div>勇気づけ</div> <div>• 困難を克服する活力を与えること</div> <div><div>応援する</div><div>子どもの出来たことを一緒に喜ぶ 子どもが助けを求めた時に、 サポートする</div></div> <div><div>感謝する</div><div>結果ではなく過程に注目し、 これまでの過程に感謝する</div></div> <div></div>
<div>アドラー心理学の考え方</div> <div>➤5つの理論 (自己決定論、目的論、全体論、対人関係論、認知論)</div> <div>➤技法 (勇気づけ)</div> <div>➤価値観 (共同体感覚、自己受容、他者信頼、貢献感)</div>	<div>共同体感覚</div> <div>• 私はここにいて良いんだ。</div> <div></div>
<div>共同体感覚</div> <div>• 私はここにいて良いんだ。</div> <div><div>他者信頼</div><div>周囲の人は私を援助してくれる</div></div> <div><div>自己信頼 (他者貢献)</div><div>私は周囲の人へ貢献できる</div></div> <div><div>自己受容</div><div>ありのままの自分を受け入れる</div></div> <div><div>共同体 感覚</div><div>このコミュニティにいて良いんだ</div></div> <div><div>最終のゴール</div></div>	<div>アドラー心理学の全体像</div> <div><div>技法</div><div>勇気づけ 困難を克服する活力を与える</div></div> <div><div>5つの 理論</div><div><div>自己決定論</div><div>全体論</div><div>目的論</div><div>認知論</div><div>対人関係論</div></div></div> <div><div>価値観</div><div>共同体感覚 「居場所がある」「信頼できる」「貢献できる」という感覚</div></div>

最後に

- あなたは、お子さんを信じていますか？
- あなたが今お子さんのためにやろうとしていることは、
本当にお子さんのために思っていることですか？
- あなた自身が背負い込みすぎではありませんか？

大丈夫です！あなたの思いは本物です！

ご清聴ありがとうございます！

第1回5市合同説明会

<div>2025年5月16日 5市合同説明会</div> <div>各機関が持つ 強み・弱みを認識した連携</div> <div>和歌山県立医科大学附属病院小児科・小児成育医療支援室 前田 真範</div>	<div>見出し</div> <div>1. 子どものこころを取り巻く課題<ul style="list-style-type: none">連携の難しさ医療の役割と限界</div> <div>2. 各機関が持つ強み・弱みを認識した連携<ul style="list-style-type: none">支援室の特色、強み支援室の弱みと補完しあう連携</div>
<div>子どものこころを取り巻く課題</div> <div>通級による指導を受けている児童生徒数の推移【学校種別・国公立立計】</div> <div>○通級による指導を受けている児童生徒数は全国で198,343人(前年度比+14,464人) (小学校・中学校・高等学校に在籍する児童生徒数に占める割合は1.6%)</div> <div></div> <div>文部科学省「令和4年度通級による指導実施状況調査結果」</div>	<div>子どものこころを取り巻く課題</div> <div>特別支援学級の児童生徒数・学級数</div> <div></div> <div>文部科学省「特別支援教育の充実について」</div>
<div>子どものこころを取り巻く課題</div> <div>＜参考2＞ 不登校児童生徒数の推移グラフ</div> <div></div> <div>文部科学省「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果について」</div>	<div>子どものこころを取り巻く課題</div> <div>精神疾患を有する外来患者数の推移（年齢階級別内訳）</div> <div></div> <div>厚生労働省「精神保健医療福祉の現状等について」</div>

子どものところを取り巻く課題

【表】採用後10年までの正規雇用の教員のうち、特別支援教育に関する経験が2年以上ある教員 ※複数回答

	小学校 (n=128,856)	中学校 (n=78,553)	高等学校 (n=62,226)	合計 (n=269,635)
いずれも経験なし	85.5% 110,208	63.6% 49,940	92.9% 57,783	80.8% 217,931
特別支援教育に関する 以下いずれかの経験あり(※)	14.5%	36.4%	7.1%	19.2%
特別支援学校の教職経験	1.4% 1,741	2.0% 1,589	2.2% 1,362	1.7% 4,692
特別支援学級の学級担任の教職経験	9.4% 12,108	7.8% 6,090	0.8% 513	6.9% 18,711
特別支援学級の教科担任の教職経験	1.5% 1,945	29.2% 22,928	1.2% 760	9.5% 25,633
通級による指導の経験	1.5% 1,880	1.6% 1,286	0.6% 400	1.3% 3,566
特別支援教育コーディネーターの教職経験	2.9% 3,784	2.5% 1,962	1.7% 1,039	2.5% 6,785

文部科学省「令和5年度特別支援教育体制整備状況調査結果」

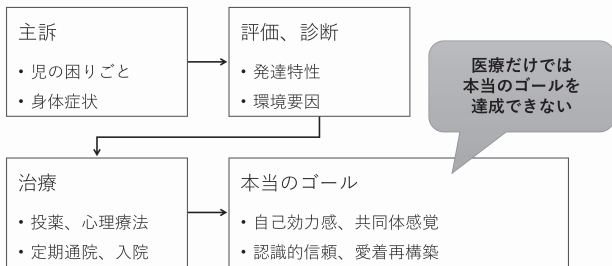
連携の難しさ

全国から抽出された公立小中学校・特別支援学校・教育委員会の教職員1657人から回答を得た「教育と医療の連携」調査¹⁾

- 医療と連携の経験がある：77.8%
- 連携してよかった：83.9%
- 連携は機能しているがまだ不足している：73.2%
- 連携は機能しているとはいえない：17.1%

¹⁾市河ら、小中学校・特別支援学校教職員を対象とした「教育と医療の連携」に関するweb調査、日児誌 2024；128：767-776.

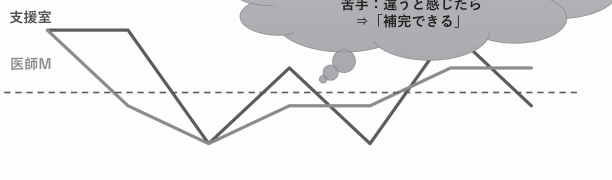
医療の役割と限界



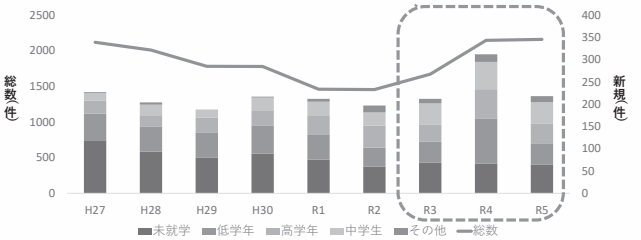
「連携」は具体的行動に移すのが難しい

- ケースバイケースの側面が大きく一般化しづらい。
- 逆に一般化しすぎると具体的に想像しにくくなる。
- 個人、組織、地域レベルで取り入れにハードル。
- 自分が果たす役割を即座にイメージしづらい。

連携を話題にする前に
支援組織の「凹凸」



成育医療支援室
面談件数の推移

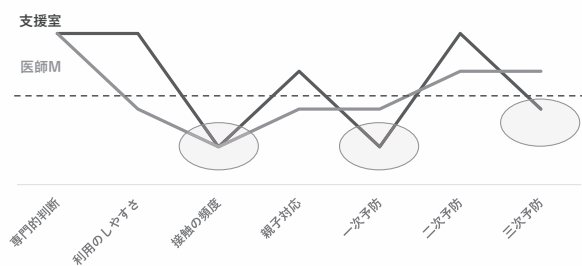


第1回5市合同説明会

<p>連携の一例としての支援室</p> <ul style="list-style-type: none">強みを挙げるなら <div><div>①ワンストップ</div><div>②相談場所としての特性</div><div>③医療と心理の連携</div><div>④外部機関との連携</div></div>	<p>ワンストップ</p> <div><div><ul style="list-style-type: none">電話一本で繋がる。家族、支援者問わず受付。その場で面談の予約取得。</div><div><ul style="list-style-type: none">医療や外部組織との連携にてある程度の<u>解決</u>を目指す。相談、面談、検査等すべての事業は無償で提供される。</div></div>
<p>相談場所としての特性</p> <ul style="list-style-type: none">0～15歳まで切れ目なく対応。子と親、それぞれに1名ずつのスタッフがつき50分の面談。必要に応じて心理検査も実施する。スタッフの種々の専門性(資格)や経歴(教育や司法)。 <div>新版K式、WISC 年平均61件</div>	<p>医療と心理の連携</p> <ul style="list-style-type: none">医師スタッフは大学小児科と小児成育医療支援室の両方に所属。支援室は大学の小児科外来と同じフロアに設置。医療が担えない<u>安全基地</u>としての役割を支援室に依頼。支援室から医師へ診断や投薬の依頼。
<p>医療の役割と限界</p> <div><div><div>主訴</div><div>• 児の困りごと</div><div>• 身体症状</div></div><div>→</div><div><div>評価、診断</div><div>• 発達特性</div><div>• 環境要因</div></div><div>↓</div><div><div>治療</div><div>• 投薬、心理療法</div><div>• 定期通院、入院</div></div><div>⇔</div><div><div>本当のゴール</div><div>• 自己効力感、共同体感覚</div><div>• 認知的信頼、愛着再構築</div></div></div>	<p>外部機関との連携</p> <ul style="list-style-type: none">例えば学校と医療の連携の全国調査では、医療に対する敷居の高さや医療側の学校現場の理解不足が障壁として挙げた。¹⁾支援室の心理スタッフはスクールソーシャルワーカーや教師、スクールカウンセラーを経験している人員も多く連携しやすい。保健師、保育士、児童相談所、精神科とも日々連携している。 <div>1)市河ら、小中学校・特別支援学校教職員を対象とした「教育と医療の連携」に関するweb調査、日児誌 2024；128：767-776.</div>

第1回5市合同説明会

連携を話題にする前に一支援組織の「凹凸」



小児成育医療支援室の弱み

- ・日々の関わりは不可能。
- ・生活の場から遠い。
- ・家族から受け取る情報の比重が大きい。
 - ・子面談もあるとはいえ。
- ・ニーズが発生してから関わりになる。
- ・“事”が起こってからの支援を抱えきれない。

まさに保健や教育、司法など様々な関係機関が強みとして持っている部分

住民の生命と暮らしを守る母子保健活動

- ・子どもや家族の健康生活を守るために
乳幼児健康診査や家庭訪問などを通じた個別支援
- ・地域診断を基に地域の健康課題を明確化
- ・子どもの育ちと親の育児を支援する環境づくり・体制整備

<保健師活動の特徴>

- ・すべての住民を対象
- ・ポピュレーションアプローチとハイリスクアプローチ
- ・妊娠前から予防的（一次予防・二次予防）に関わる
- ・地域の健康課題に対応した事業化・施策化
- ・多職種連携のコーディネート役

岡本光代先生ご提供

母子保健活動における課題・限界性

対象者

- ・発達に課題のある子どもが増加
- ・精神的な健康問題を抱える親の増加
- ・複雑な家庭環境にある対象者の増加

保健師

- ・こども家庭センターをめぐる問題
- ・業務分担制、分散配置が加速

信頼関係の構築に時間がかかる
支援の長期化、複雑化
資源不足でタイムリーに医療機関や福祉サービスを利用できない

幅広い母子保健活動の衰退の懸念
(児童福祉とどう協働する?)
地域に責任を持った活動が困難

今まさに転換期にあり医療と保健、福祉、教育による地域包括ケアシステムの構築が不可欠

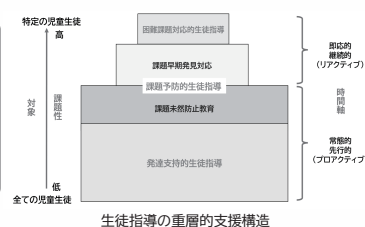
岡本光代先生ご提供

対処・予防に留めず、育てる視点（育てる生徒指導）

生徒指導の目的

児童生徒一人一人の個性の発見とよさの可能性の伸長と社会的資質・能力を支えと同時に、自己の幸福追求と社会に受け入れられる自己実現を支える

自己指導能力の育成



文部科学省（2022）生徒指導提要（改訂版）

北岡大輔先生ご提供

学校教育の限界性

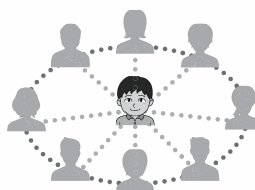
求められる対応・支援

- ・精神疾患に起因する困難さ
- ・虐待・マルトリートメント
- ・犯罪行為、くく犯行為 など

促したい学習

- ・社会の多様な価値観を知る
- ・活用できる社会資源を知る
- ・卒業後の生活をイメージする など

学校教育だけでは
応じきれない

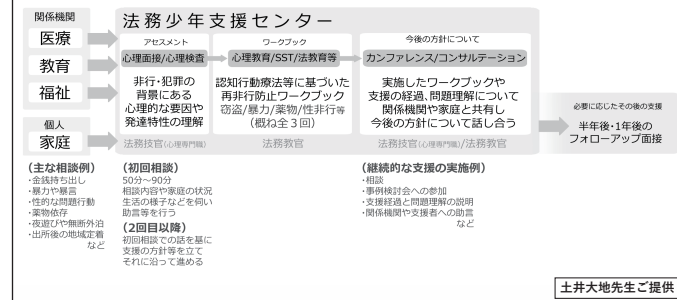


抱え込んでしまいやすい教育現場

教育の専門性と限界性を知り、専門性をリスペクトし合う関係を築く
教員一人一人がソーシャルワークの視点を

北岡大輔先生ご提供

法務少年支援センター相談の流れ



司法領域との連携における今後の課題

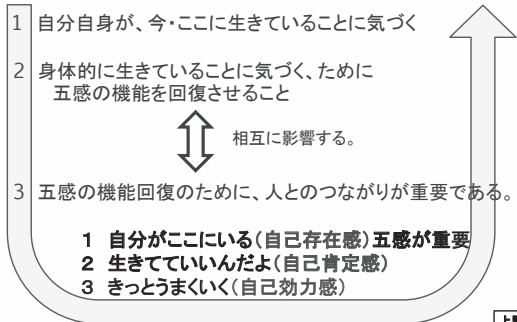
法務少年支援センターの支援は期限付き
→学校・家庭を含む様々な関係機関が
「地続きの支援」を行っていくことが大切である。

1つの機関で非行のケースを抱え込んでしまう（「警察沙汰になる」等）
→司法的な手続き（警察、家庭裁判所、少年鑑別所、少年院）を
支援の枠組みの1つとして活用してもらいたい。

非行・犯罪などの難しいケースは特に
1つの機関で抱え込まずに司法を含む各機関と連携し
「多くの目で見ていく」ということが
本人にとっても支援者にとっても大切である。

土井大地先生ご提供

連携という「つながり」をつくる前に



深い心の傷は回復から
保育園・学校・寺・神社（お祭り）

災害後の中長期における心の傷の回復のために、命がつながれている場所の存在が大きい

子どもたちが被災から徐々に日常生活にもどるにあたり、「学校」という存在、「お寺」や「神社」（地域文化）の存在が、日常の時間軸と空間軸を取り戻してくれる要となり機能している。

「地域文化の発展は、繰り返される命の循環の中で育まれる。その中心となるのは、世代を超えて受け継がれる場である保育所・学校・お寺・神社、そして祈りや祭り（祀り）である。

<https://www.town.nachikatsuura.wakayama.jp/menu/5>（参照2025-02-27）

上野和久先生ご提供

まとめ

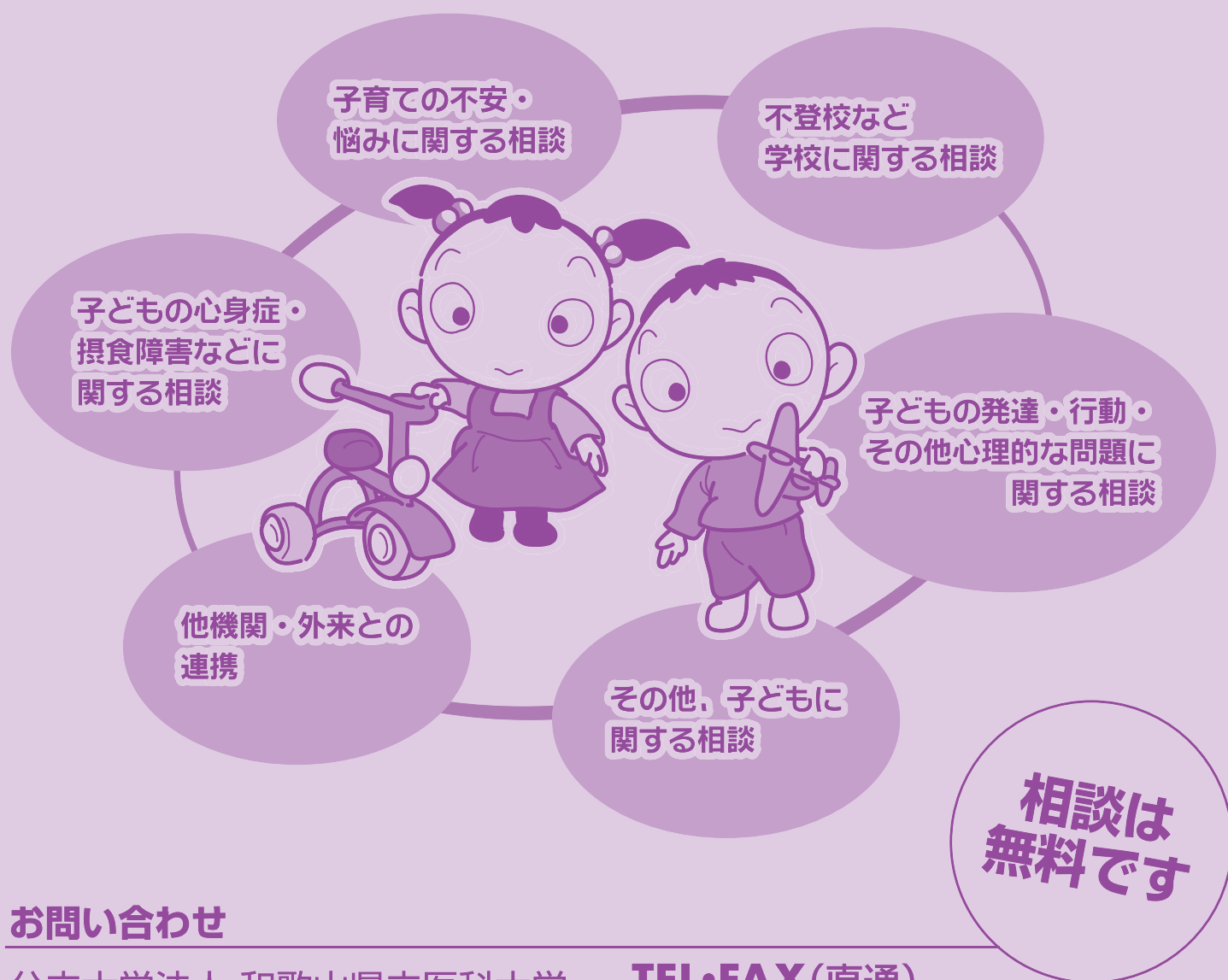
- 子どものこころを取り巻く環境は激変している。
- 小児支援室の強みと弱みを改めて示した。
- 互いの凹凸を把握した、補完しあう連携を深めたい。

子ども達の健やかな成長・発達を願って！

小児成育医療支援室

(和歌山市・紀の川市・岩出市受託講座)

お子さんの発育・発達のこと、子育ての悩み、学校での問題などお子さんについてのご相談に応じます。



お問い合わせ

公立大学法人 和歌山県立医科大学
小児成育医療支援室
(病院棟3階)

TEL・FAX(直通)

073-441-0808
073-441-0826

月～金 AM9:00～PM5:00(祝日・年末年始は除く)